

伸ばした手で頂点掴み、今度は支える側目指す

第32回全国高等学校ボクシング選抜大会
徳島特別大会 女子バンタム級 優勝
(全国高等学校選抜大会の代替大会)

立柳 萌依 さん

たちやなぎ・めい 18歳 中沢



平成15年生まれ。盛岡南高3年。曾祖母、祖父母、両親、弟と暮らす。松野小、松尾中卒。得意パンチは間合いを計るリードジャブからの右ストレート。K-POPが好きで、試合前のアップ時間はMONSTA Xの「Fighter」を聞き、気持ちを高める。

3月22日から26日まで徳島県徳島市で開かれた全国高等学校選抜大会ボクシング競技の代替大会「第32回全国高等学校選抜大会徳島特別大会」で、立柳萌依さん(当時2年)が東北ブロックの代表として女子バンタム級に出場し、全国の頂点に立った。

準決勝に続き、決勝の対戦相手もボクシング歴の長いアンダージュニア出身の選手。積極的に前に出る相手に序盤は苦戦したものの、相手のペースに乗らず冷静に立ち回り、鋭い左ジャブを軸に流れを呼び寄せた。3ラウンドに右ストレートで2度目のダウンを奪うと、審判がレフェリーストップコンテストを宣言。3ラウンド1分14秒で勝利した。「試合前は緊張したが、顧問の先生や仲のいいマネジャーの存在が心の支えになった。自然体で臨めたのが大きい」と自分を支える周囲の人たちへの感謝を口にした。

ボクシングとの出会いは、高校進学時に部活動のポスターが目



5月に開かれた県高等学校総合体育大会でも優勝

に入ったのがきっかけ。見学してみると楽しそうだったからと軽い気持ちで入部したものの、練習は週6日、走り込みやミット打ち、スパリーングなどをみっちり2時間と、とてもハードだった。人を殴るのも殴られるのも怖く、辛い練習や減量など、やめたい理由はたくさんあったが、切磋琢磨し合える仲間の存在や自分自身に負けたくないという思いで日々を乗り越え、歩み続けた努力の道が全国の頂へとつながった。柔道整復師になり、頑張る人を支えるのが夢。「けがなどのケアを通じて、運動を楽しむ人を応援し続けたい」とにっこり笑う。グローブを壁に掛け、将来の夢に向け勉強に打ち込む。

【広告】

いぼ、癌、免疫系等
薬のプロフェッショナルがあなたのご相談を承ります

コミュニティバス「にしね眼科」バス停すぐ

漢方のあさひ薬局 西根中学校前店

公認スポーツファーマシスト
国際中医専門相談員
認定実務実習指導薬剤師

薬剤師 齋藤貴将

八幡平市大更24-1-118(西根中学校前) TEL.0195-70-2311

■編集後記

▽立柳萌依さん、ハキハキと受け答えながらもよく笑う、まさに明朗快活を体現したような子でした。取材終わりに、「発ボディプロ」を打ってもらったこと。体の芯にすっきり重さが残り続ける感じは流石だと思います。ボクシングで全国優勝、しかも生徒会長。漫画の主人公みたいですね。(吾)

▽パラリンピックバイアスロン代表候補者合宿取材しました。私の地元田山で世界を相手に戦う選手たちを間近で見ることができて感激しました。現地で観戦することはできないので、大会期間中はテレビの前で応援したいと思います。皆さんもステイホームで選手にエールを送りましょう。(雅)